

## 時代に先駆けて地域物流のアウトソーシングを受託、 倉庫管理から商品出庫までをトータルサポート。

株式会社 鹿児島急送 (鹿児島南栄支部)

商品入庫から仕分け、出庫まで。きめ細かな品質管理と輸送システムの確立により、顧客の視点に立った物流ネットワークをいち早く構築した地域物流業界のパイオニア。事業発展の鍵は、何をおいても‘人育て’。



代表取締役会長 峯山光士郎さん 代表取締役社長 峯山 光輝さん

株式会社 鹿児島急送

本社/鹿児島市東開町13番6号  
代表取締役社長/峯山光輝  
社員数/350名  
保有車両/176台



昭和60年の創業当初から、一般の運送業のかたわら、倉庫管理と商品入庫、仕分け、出庫という一連の物流管理業務の受託をスタートした。現在、メーカーや量販店が物流の一部をアウトソーシングするのは一般的な流れになってきたが、当時、他にはまだ見られない画期的なビジネススタイルだった。「種子島から出てきたばかりで金がなかったから、地域物流の隙間を狙うほかなかった」と、創業者の峯山光士郎会長は振り返るが、知恵をめぐらせて見つけた‘隙間’は時代のニーズを的確に先取り、順調に業績を伸ばしてきた。

現在、鹿児島市東佐多浦町(旧吉田町)と福岡県の物流センターに拠点倉庫を構え、5,000アイテム以上の商品の物流を管理している。主要取引先はコンビニやスーパー、レストランチェーン等のほか機械メーカーなど。冷凍、冷蔵を含む青果や精肉のほかにマヨネーズ、

ラーメン、さらに精密機器、電子部品なども取り扱う。顧客別の管理・輸送体制の確実性はもちろん、食品の安全性にはとくに細心の注意が欠かせない。さらに同社では従業員のだれもが多岐にわたる商品を管理できるシステムを作り上げてきた。

管理システムの構築に大きく寄与したのが、峯山会長の長男で、現社長の光輝氏。勤務していた(株)キューソー流通システムを8年前に辞し、帰郷して社長に就任した若い後継者だ。経営者の世代交代が理想的な形で実現できていることは峯山会長の自慢。大切なのは「親子、家族仲が良く、言うべき事はお互い何でも言うが、後に残さないこと」。品質や経費管理だけでなく、従業員教育、給与体系の見直し等、機を見ては徐々に光輝氏に権限を委譲してきた。父の期待に応え、光輝氏の経営手腕は発揮され、去年の人事制度見直

しの効果も手伝って、今年、同社は昨年より収益を伸ばしている。

光輝氏は昨年、社員全員に対する定期的な面談をスタートさせた。責任者には社長が、また従業員一人ひとりには、営業所長による面接を実施した結果、従業員の意欲や不満が読みとれるようになった。今年初めには、経営理念と行動指針、毎日の注意事項などを記した名刺大のカードを作成し、従業員全員に配布した。「毎日、目標を目で確認することは効果的です。伝えたいことは、しつこく繰り返します。子育てと同じように」。

同社が目指すのは‘人が強い’企業。‘人が強い’とは、一人一人の事務、接客などの能力が高いことは言うまでもなく、この会社で働けてよかった、という思いを持ち、そしてお客様から喜ばれること。「優秀な人材が入ってきて良い仕事をする事は理想ですが、

良い人材を求めているばかりではなく、私たちが育てることをしていかないと。どんな方でも、ピカッと光る人材になれる」。ニートや引きこもりなど、勤労意欲を失った若者が増えている現在、若い人の意欲を引き出せる企業、業界でありたいという。

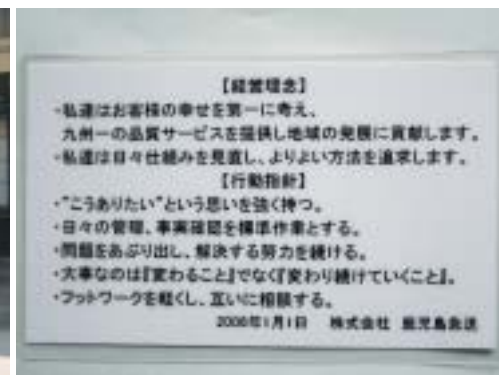
今後の抱負は、10年後を見据えて、さらに南九州の物流をきめ細かくサポートしていくこと。今年6月からは宮崎地区の配送など数種の新規事業にも乗り出す。「私たちは皆さまに支えられてここまで来られた。これからは私たちも、人に喜んでもらうことをしていきたいのです」。家族、会社、地域、故郷という人間の絆を重んじる社風が、物流というネットワークづくりに反映されている。



本社事務所



主力の冷蔵冷凍バン



経営理念と行動指針を示したカード



南九州物流センターと施設内の様子

